

2023年度 がん登録塾 部位別セミナー

第1回

1コマ

部位別セミナー

食道のがん



JA長野厚生連 佐久総合病院
総合医療情報センター

西本 寛



食道の解剖・生理

消化管の解剖

●食道(頸部→胸部→腹部)→食道胃接合部

●胃(噴門→胃底部→胃体部→幽門前庭部→幽門)

●十二指腸(上部【球部】→下行部→水平脚→上行部)
→^{トライツ}Treitz靱帯

●小腸*(空腸→回腸)→回盲部 * 狭義の小腸

●結腸(盲腸→上行結腸→横行結腸→下行結腸)

●直腸(直腸S状部→上部→下部)

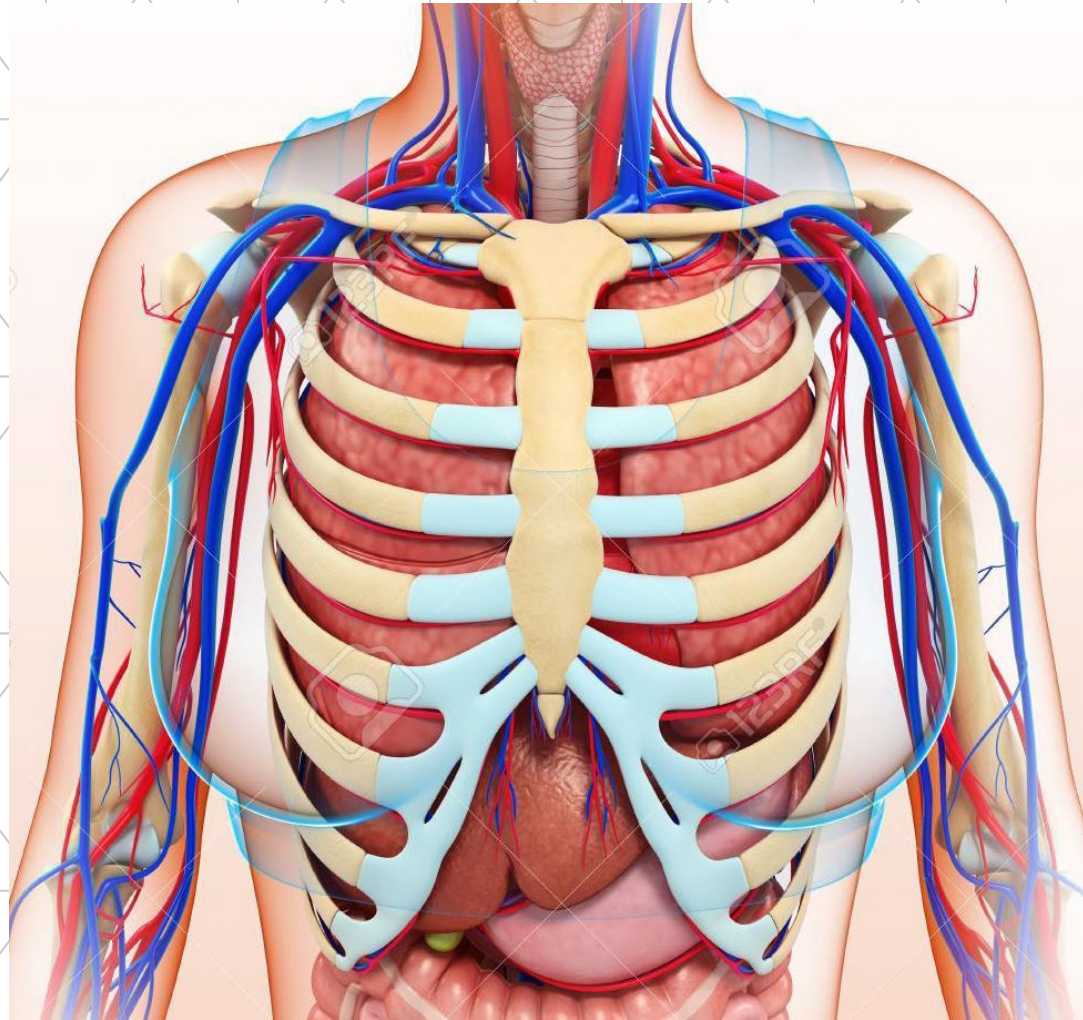
●肛門管

↑上部消化管
↓下部消化管

青字は腹腔内

胸部臓器の解剖

- 胸壁
 - 鎖骨・胸骨・肋骨
 - 結合組織
- 肺・気管
- 胸膜
- 縦隔
 - 心臓
 - 大血管
 - 食道
- 脊椎



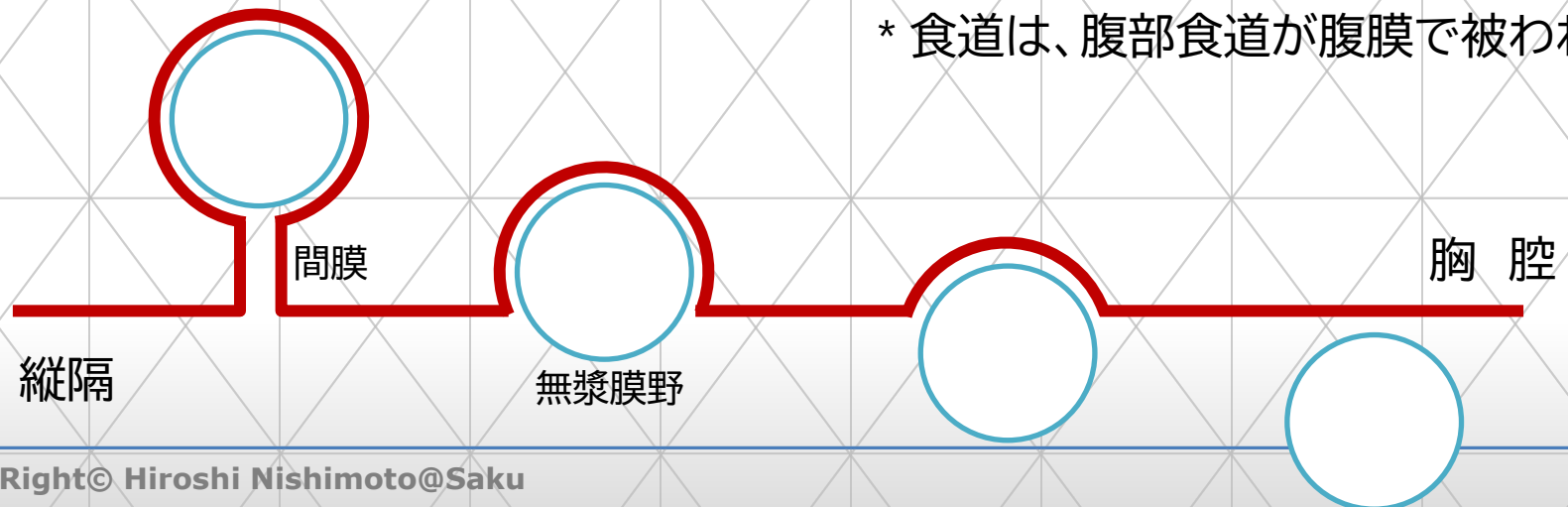
胸部臓器の解剖

- 胸(膜)腔は、胸膜で被われた袋状の空間(腔)
- 胸膜は、肺門部で折れ返し、肺と縦隔を結ぶ
肺門部は、気管支・血管・リンパ管・神経の通路
 - 臓側胸膜 肺を被う
 - 壁側胸膜 縦隔・胸壁などを被う
横隔胸膜、肋骨胸膜、縦隔胸膜の他、
胸膜頂(肺尖部)に分かれる
 - 肺間膜 肺門から尾側に伸びる部分
- 縦隔は、左右の肺にはさまれた空間
食道、心臓、胸腺などが存在

胸膜/心膜と内臓の関係

- 全体が胸膜/心膜(漿膜)に包まれる(間膜形成)
肺、心臓、食道の一部(腹部食道)
- 大部分が胸膜/心膜(漿膜)に包まれる
- 半分程度が胸膜/心膜(漿膜)に包まれる
肺動脈、上行大動脈
- 全く胸膜(漿膜)に包まれない
食道*、胸腺、乳腺、気管他の縦隔臓器

* 食道は、腹部食道が腹膜で被われる

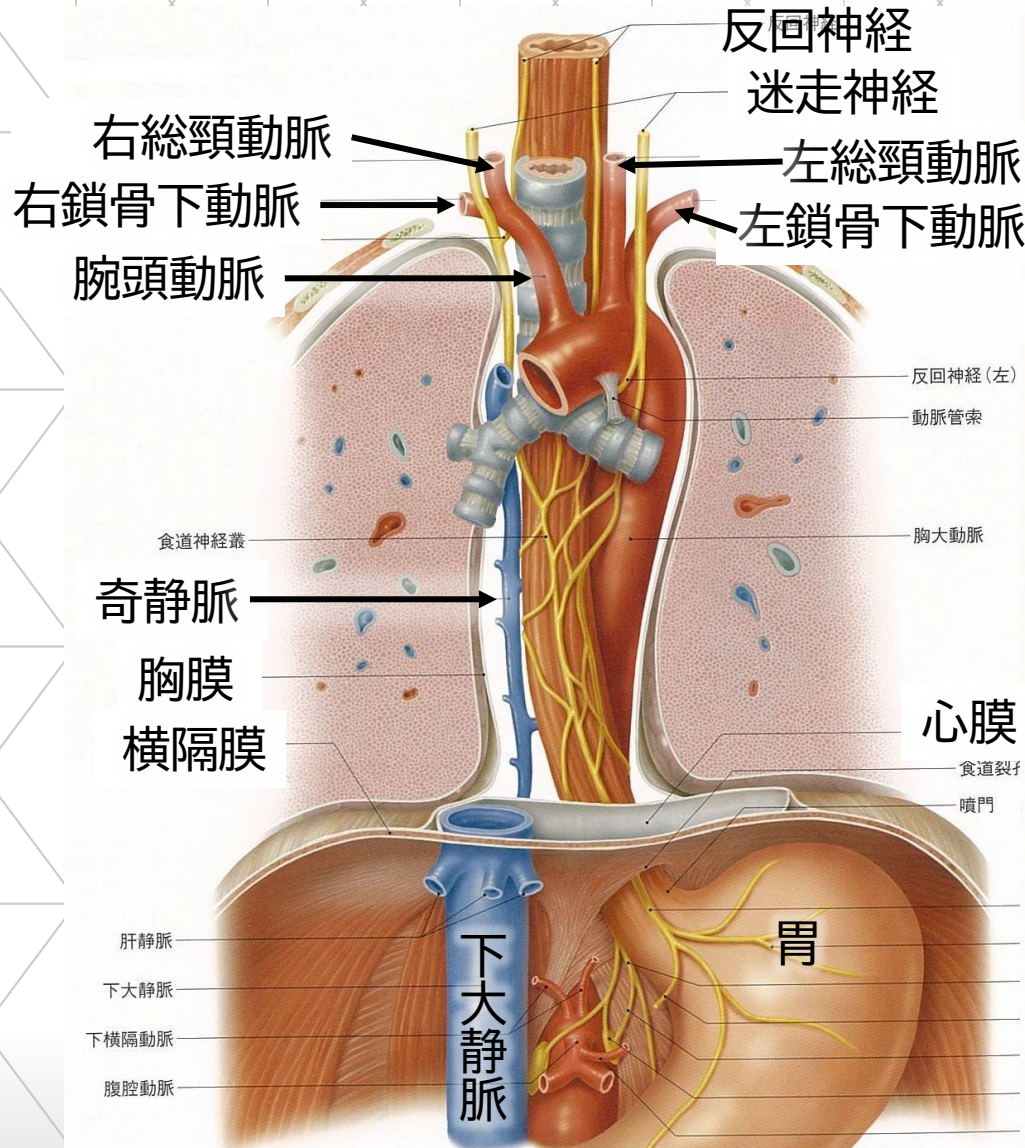


食道 (Esophagus)

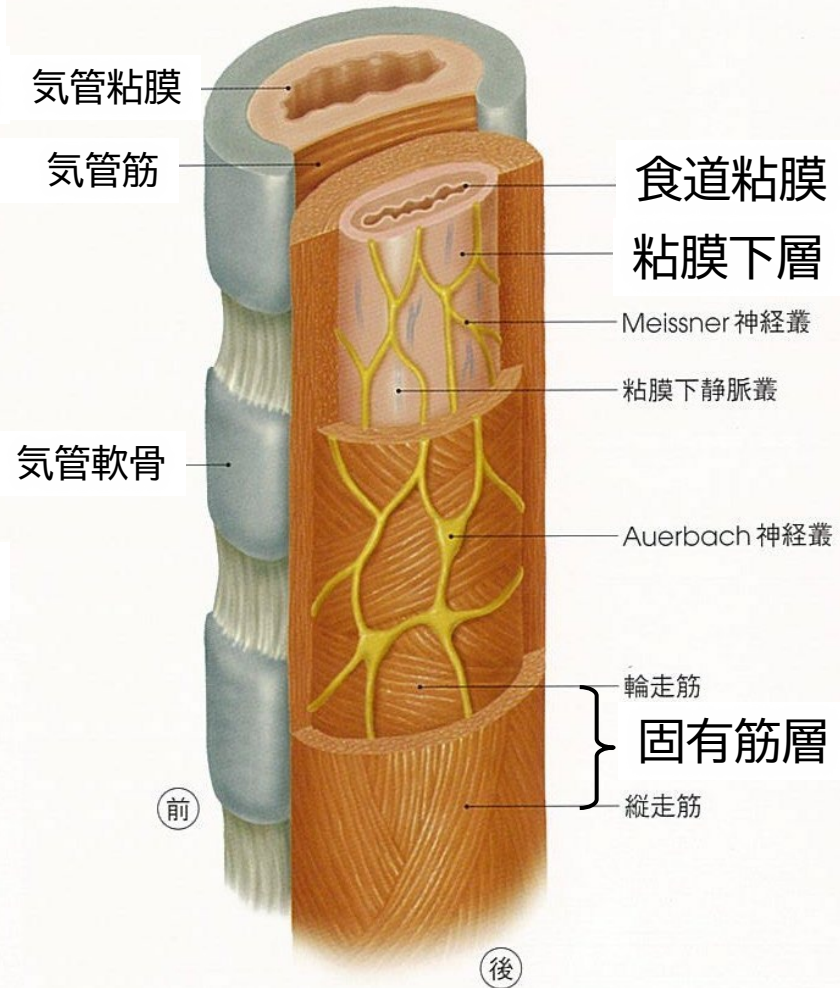
- 咽頭下部から、
胸郭入口部と横隔膜の間にある縦隔を通り、
横隔膜の食道裂孔をへて、腹腔内で胃につながる
- 頸部・胸部・腹部に分類されるが、
上部・中部・下部という内視鏡による分類が
用いられることもある
- 重層扁平上皮(EP)→粘膜固有層(LPM)
→粘膜筋板(MM)→粘膜下層(SM)
→固有筋層(MP:輪状筋→縦走筋)
→外膜(AD)という構造を持つ

外膜は、境界がはっきりせず、隣接臓器・組織とつながる結合組織

食道的位置と気管との関係

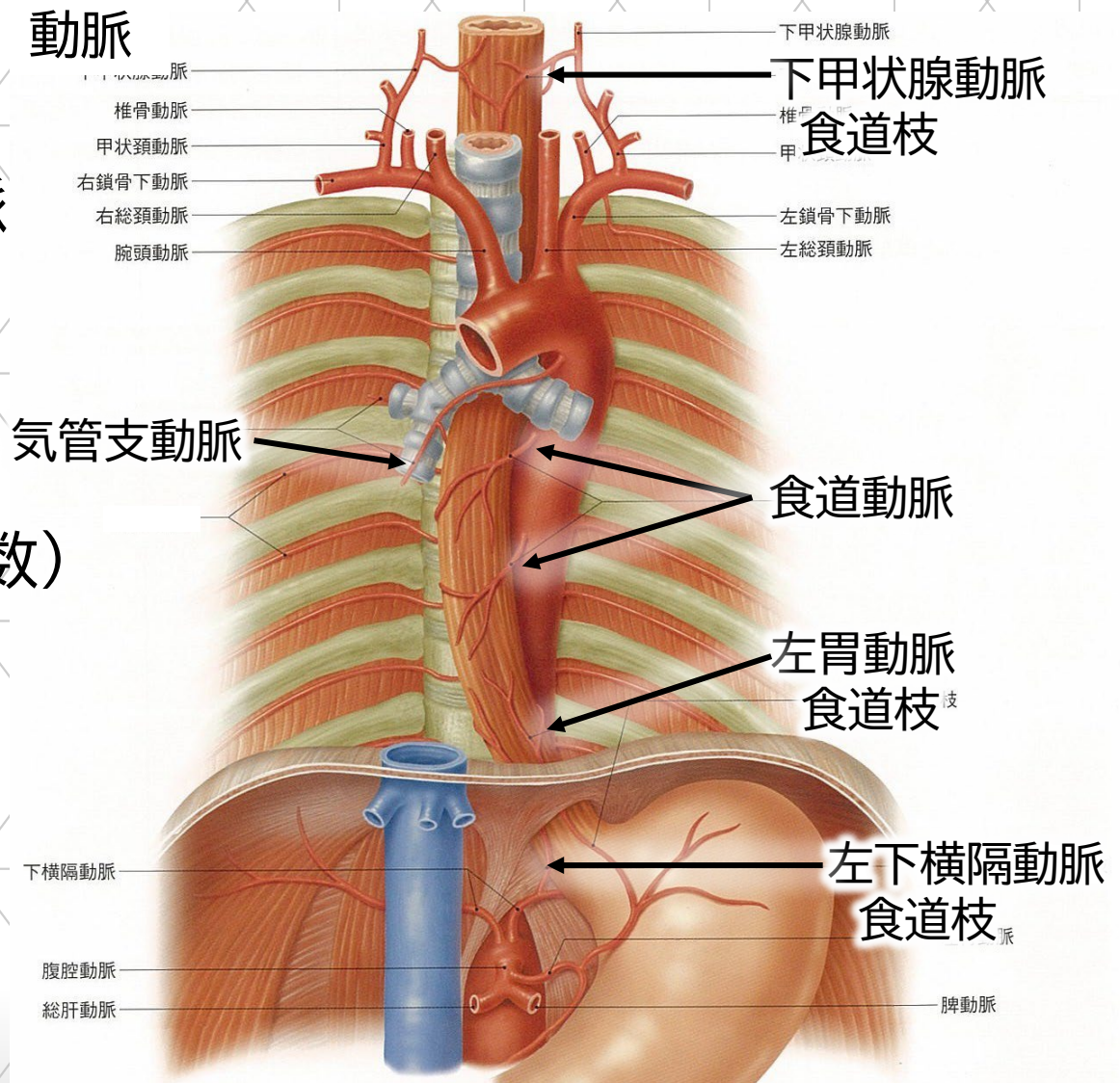


食道を斜め後方から見る
食道の前を気管が走行



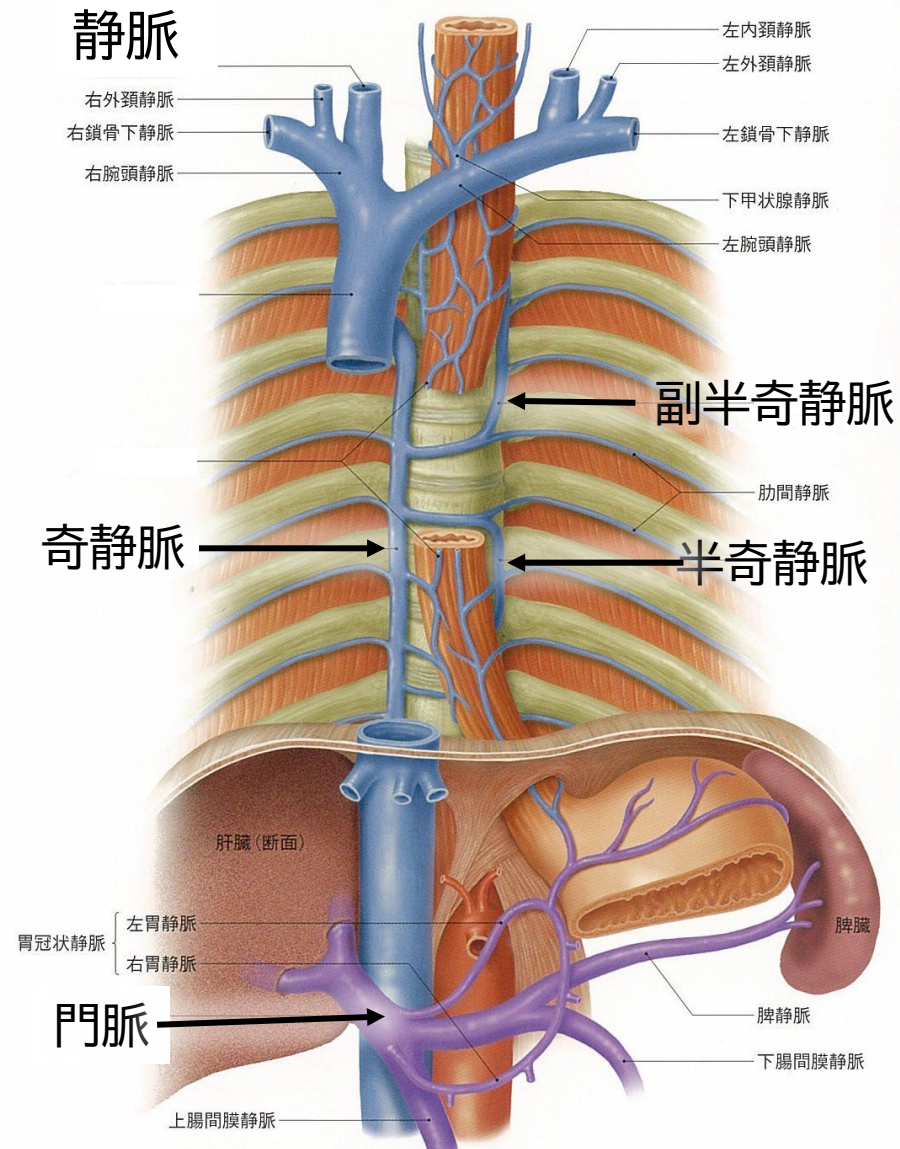
食道の動脈

- 頸部食道は
 - 左右鎖骨下動脈
 - 下甲状腺動脈
 - ～ 食道枝
- 胸部食道は
 - 胸部大動脈
 - 食道動脈(複数)
- 腹部食道は
 - 腹腔動脈
 - 左胃動脈
 - ～ 食道枝
 - 下横隔動脈
 - ～ 食道枝



食道の静脈

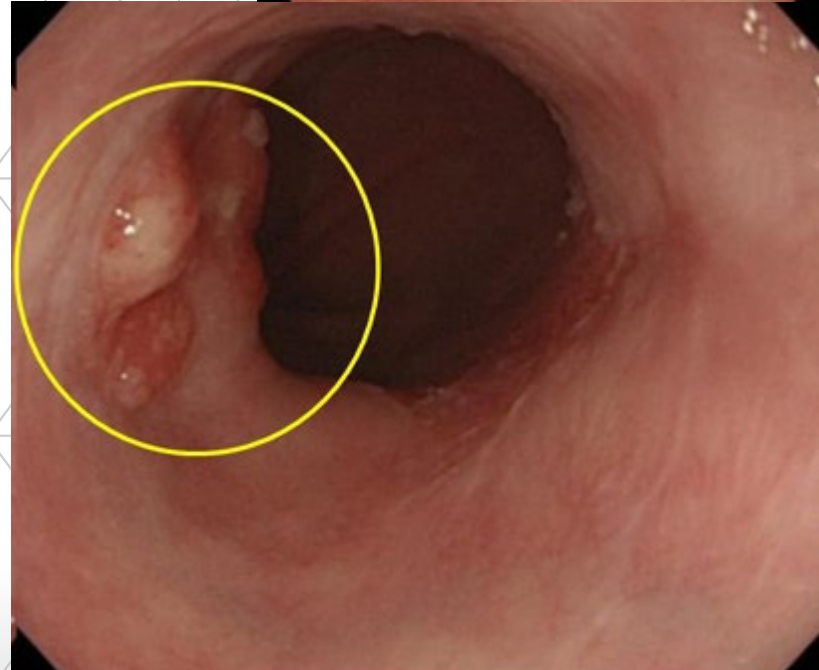
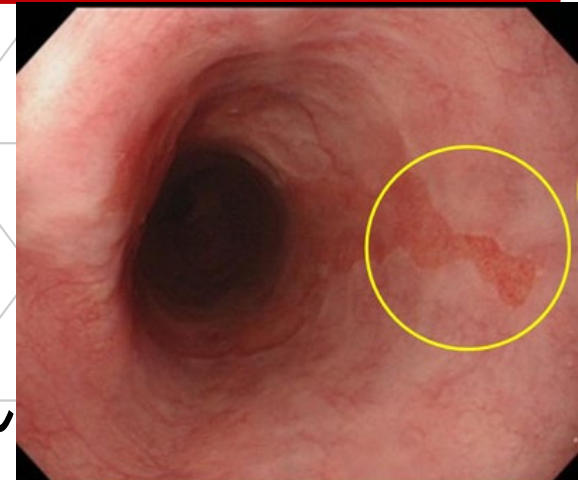
- 右側は
 - 奇静脈
- 左側は
 - 副半奇静脈
 - 半奇静脈
- いずれも、奇静脈を経て、上大静脈へ



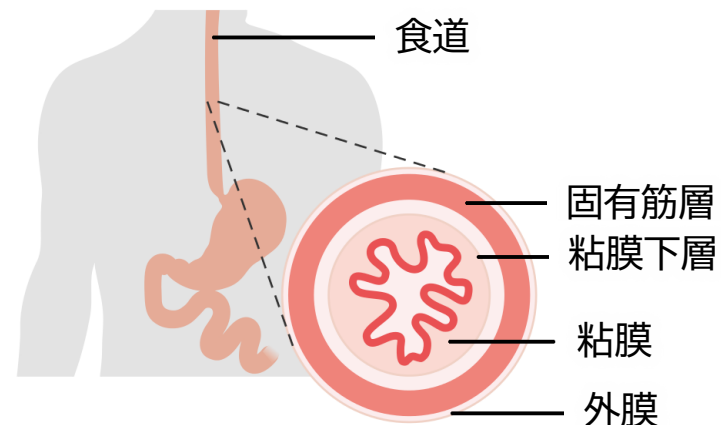
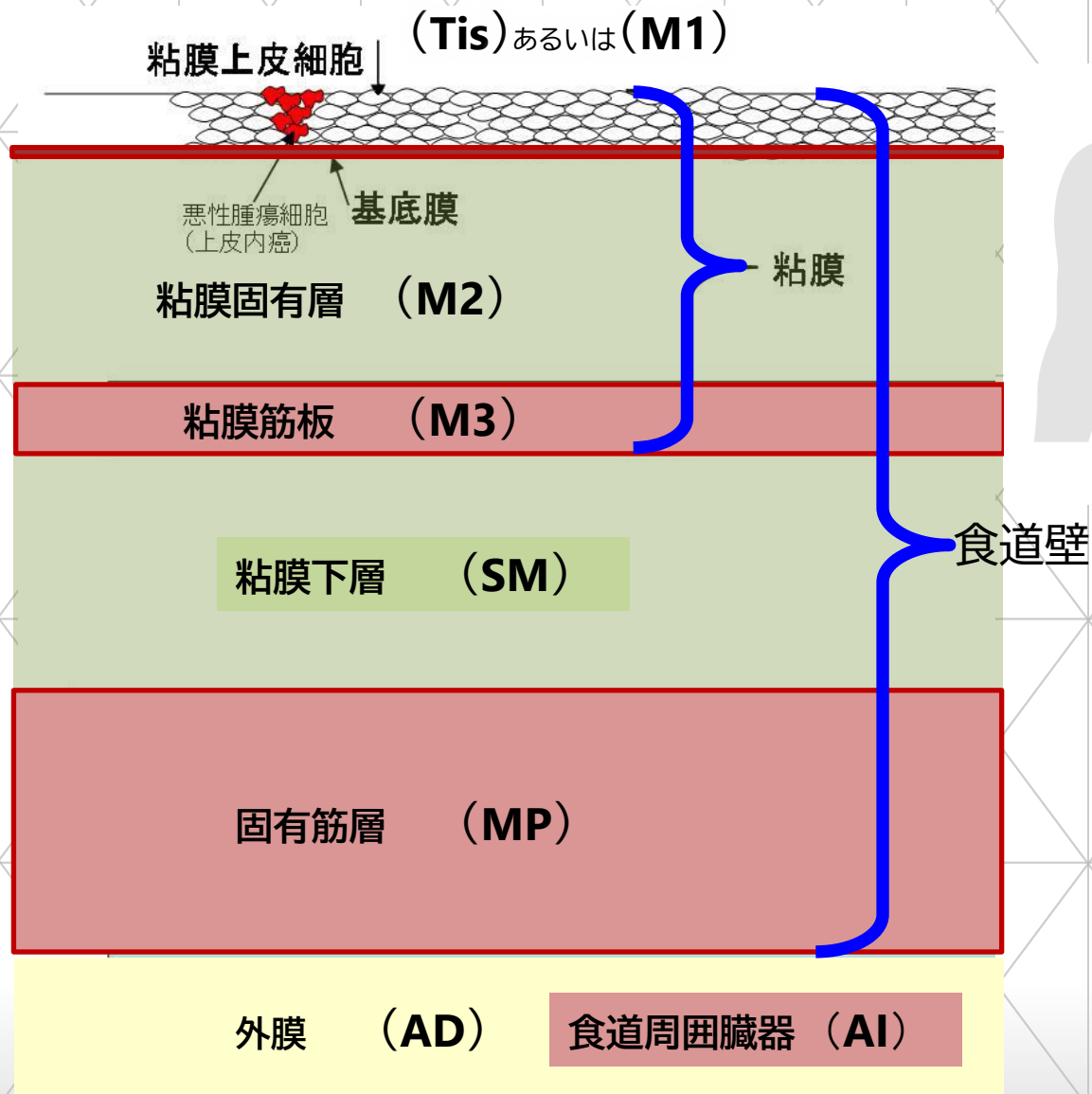
バレット食道

- 重層扁平上皮の食道に、胃粘膜(単層円柱上皮)が化生(Metaplasia)を起こす
 - 腸上皮化生があると癌化リスク高い(SCE:特殊円柱上皮陽性)
- 胃食道逆流が誘因といわれる
- 癌化することがある

欧米の食道癌の多数を占める



食道の層構造



- 固有筋層より外が外膜
- 固有筋層までが食道壁

消化管壁の構造

●上皮

- 重層扁平上皮
- 単層円柱上皮(腺上皮)

粘 膜

■ 重層扁平上皮

- 物理的**防御**
- 粘液の分泌

■ 単層円柱上皮

- **吸収**(栄養・水分)
- 粘液の分泌

●粘膜固有層

●粘膜筋板

●粘膜下層

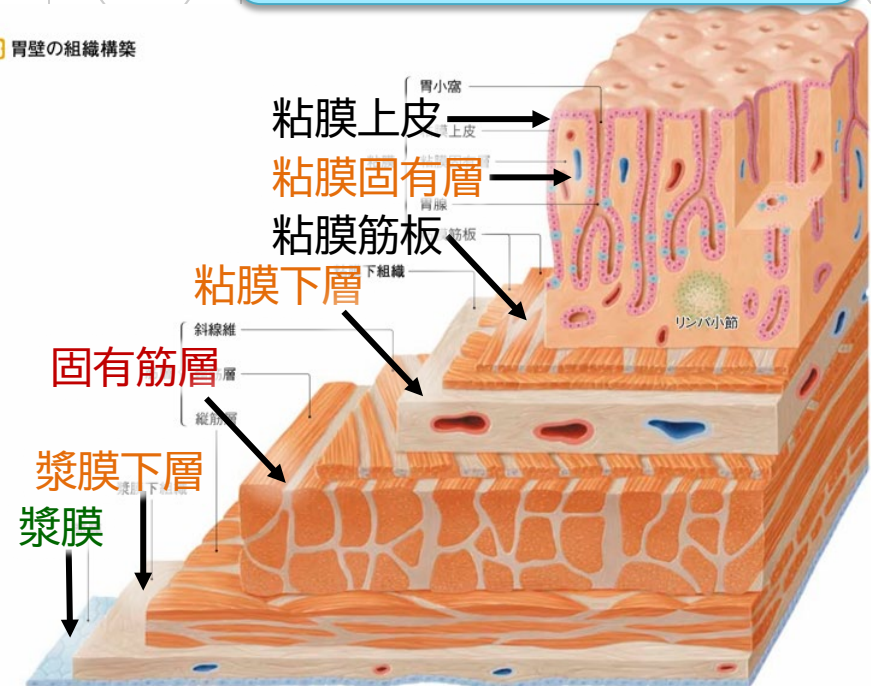
●固有筋層

●漿膜下層

●漿膜(腹膜)

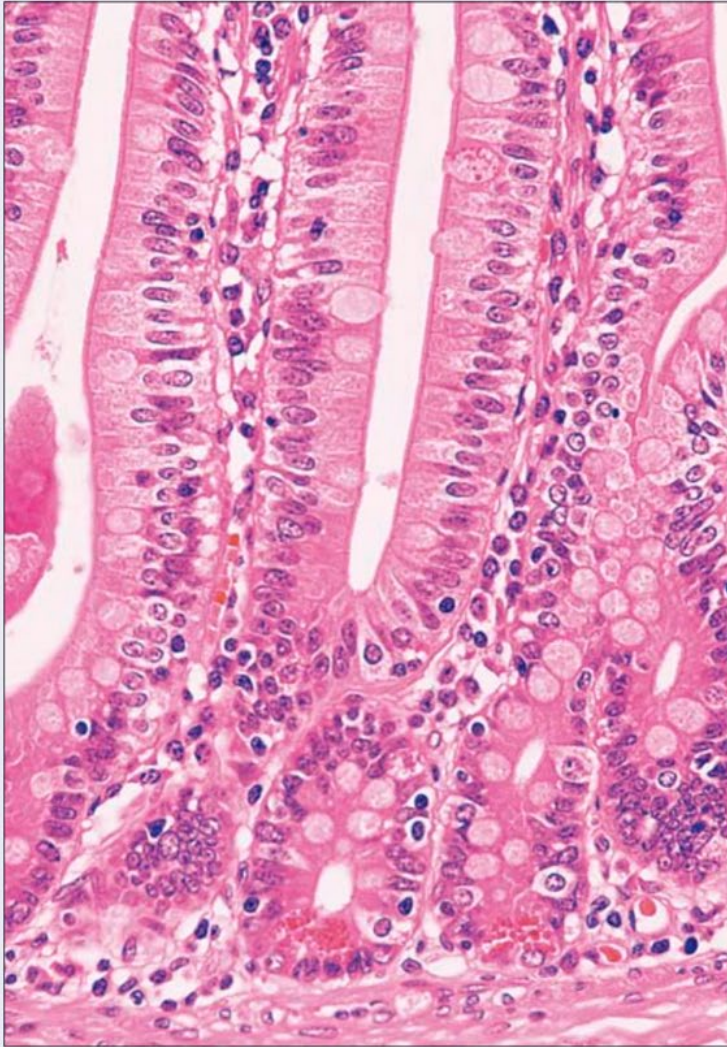
外 膜

43 胃壁の組織構築



消化管の粘膜構造

33 単層円柱上皮 (小腸)



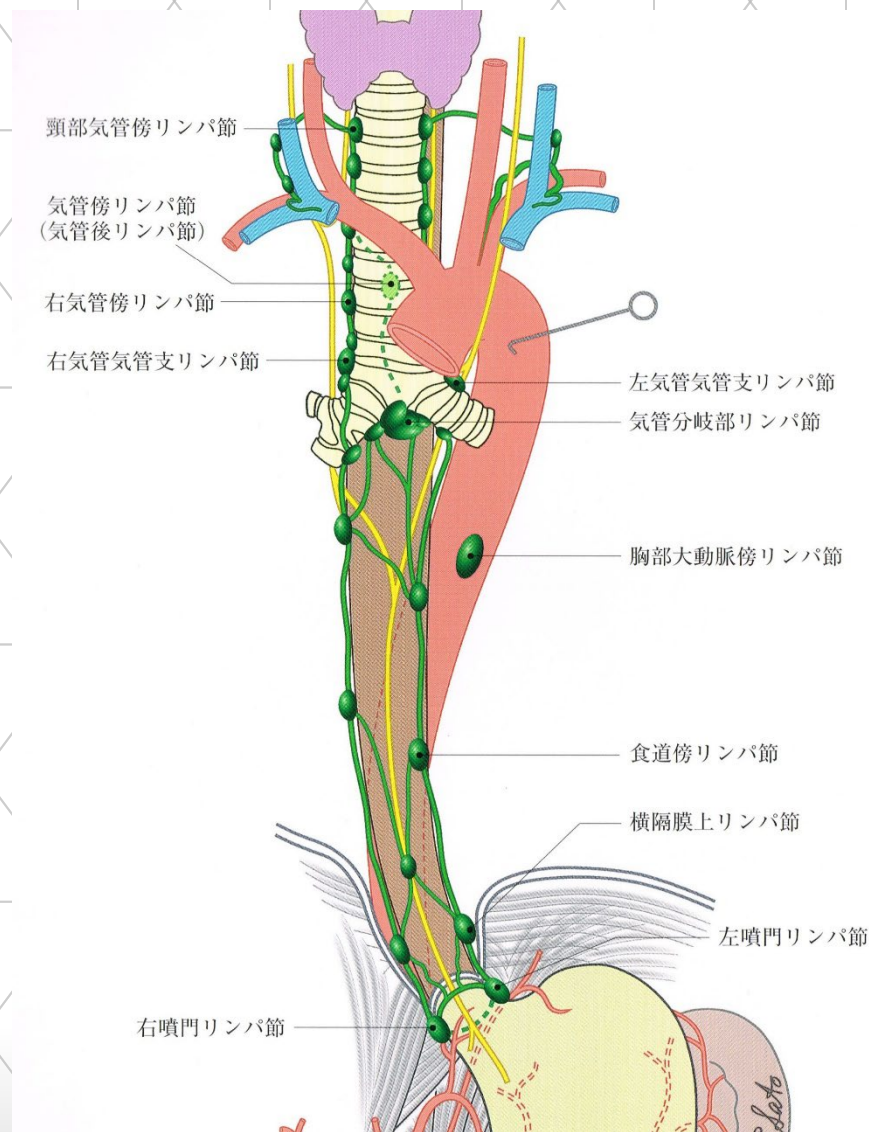
34 重層扁平上皮 (食道)



食道がん関連リンパ節

●主に 縦隔のリンパ節

- 頸部食道傍
- 反回神経周囲
- 気管前、気管分岐部
- 胸部中部食道傍
- 主気管支下
- 胸部下部食道傍
- 横隔上
- 腹側胸部大動脈周囲
- 左胃動脈 など

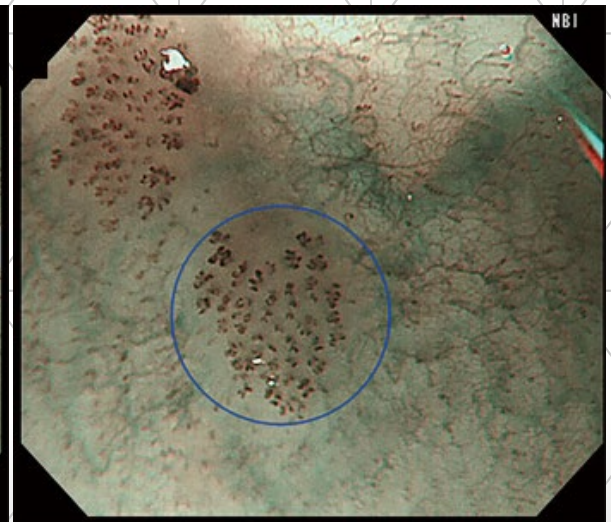
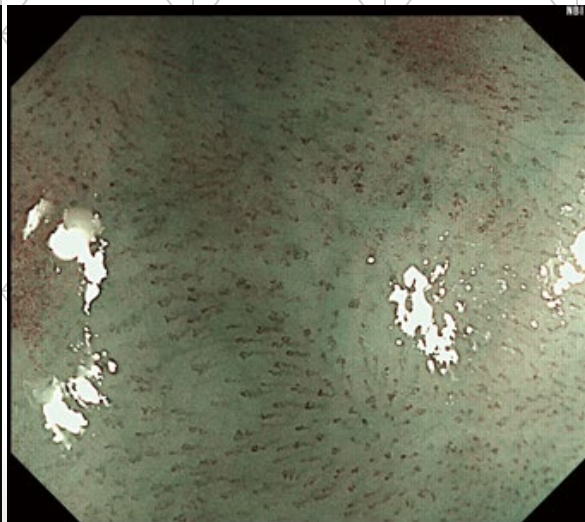
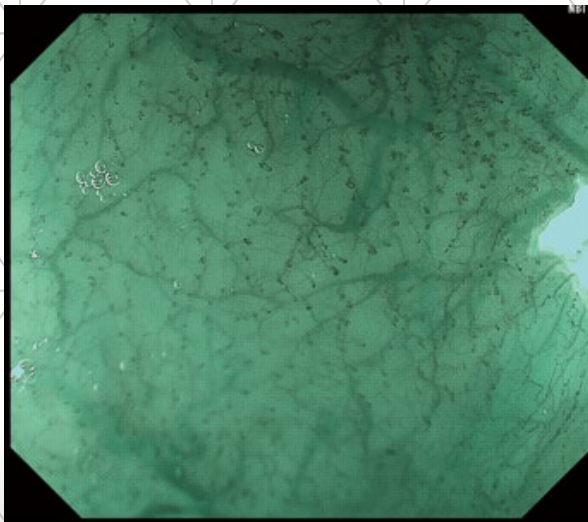
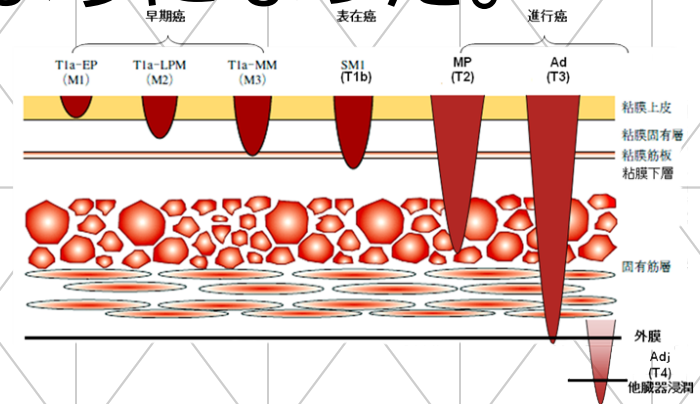


拡大NBI(ナローバンド)内視鏡

- 褐色領域(Brownish Area)部分で、
表在食道癌を発見できるようになった。

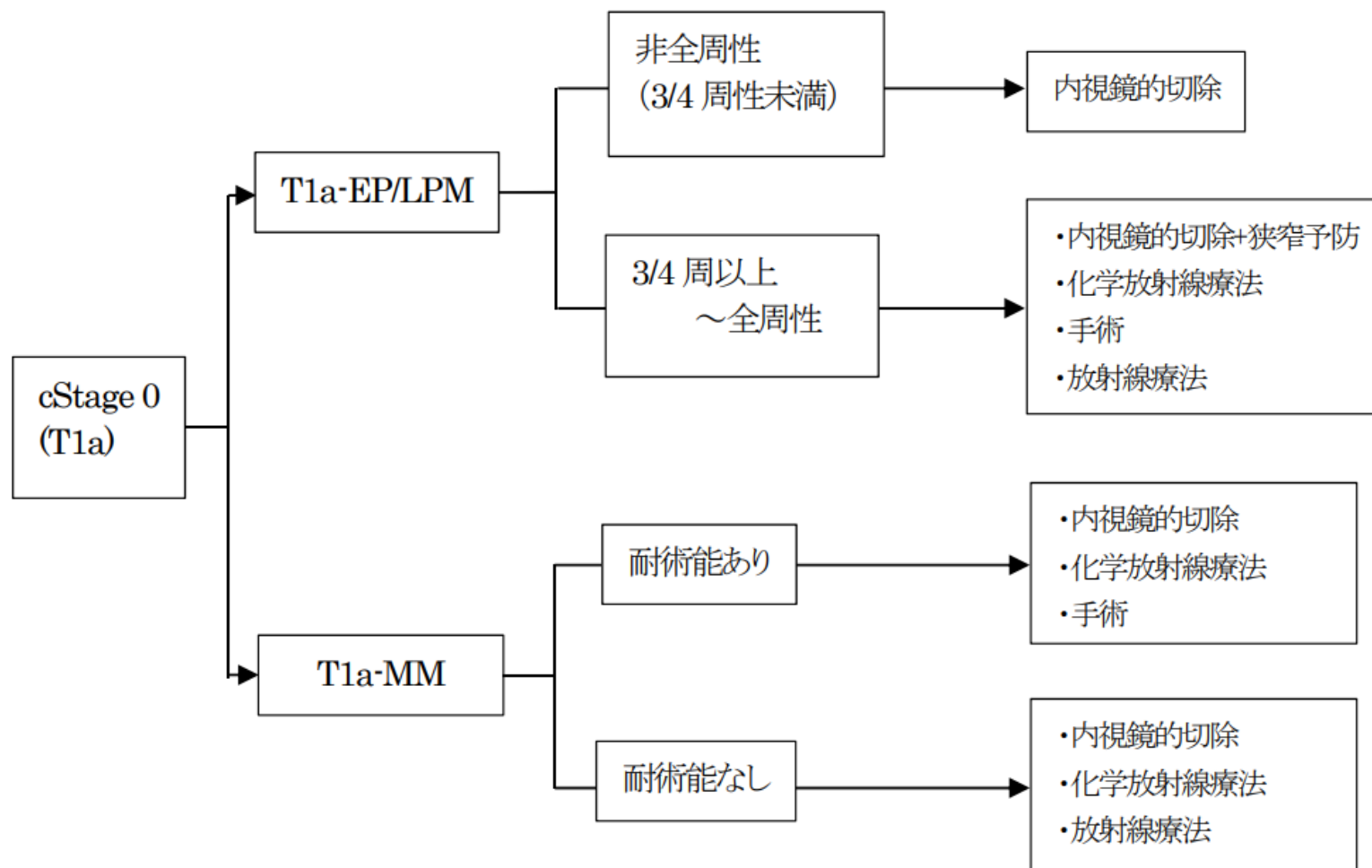
- 表在癌
- 早期癌

粘膜下層まで
粘膜筋板まで



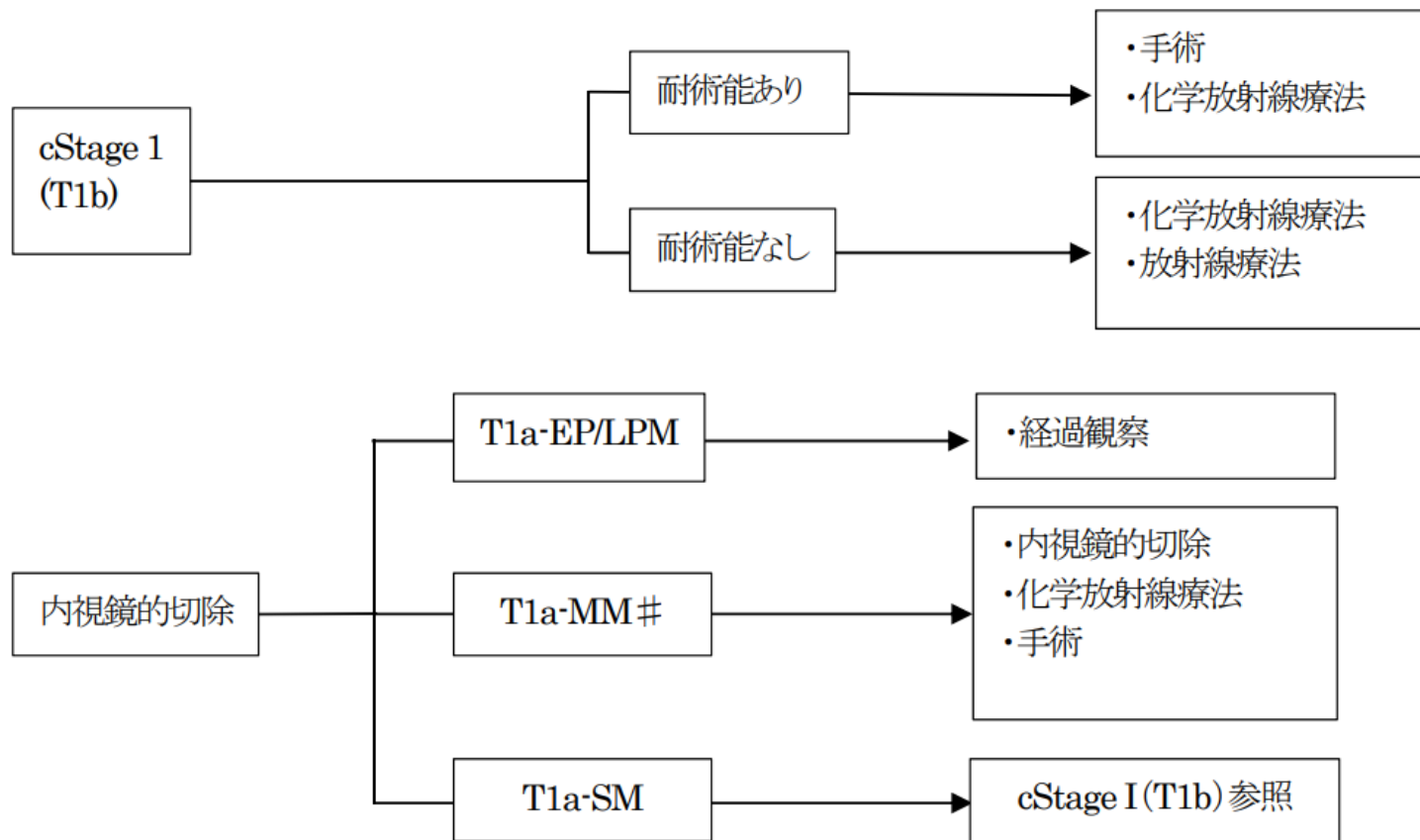
取扱い規約に基づく治療GL

cStage:0期(T1a)



取扱い規約に基づく治療GL

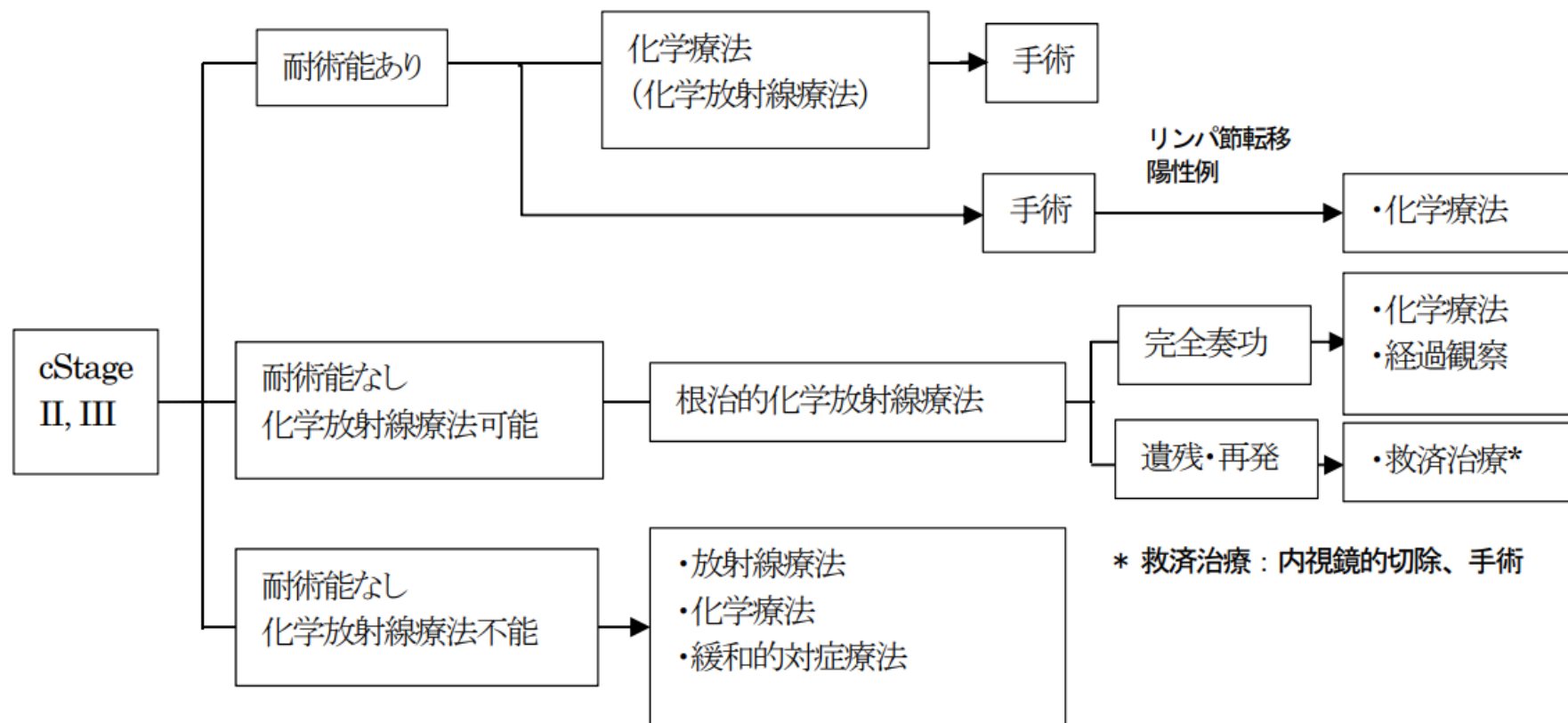
cStage: I 期(T1b)



脈管侵襲 (+) では、手術または化学放射線療法などの追加治療を考慮

取扱い規約に基づく治療GL

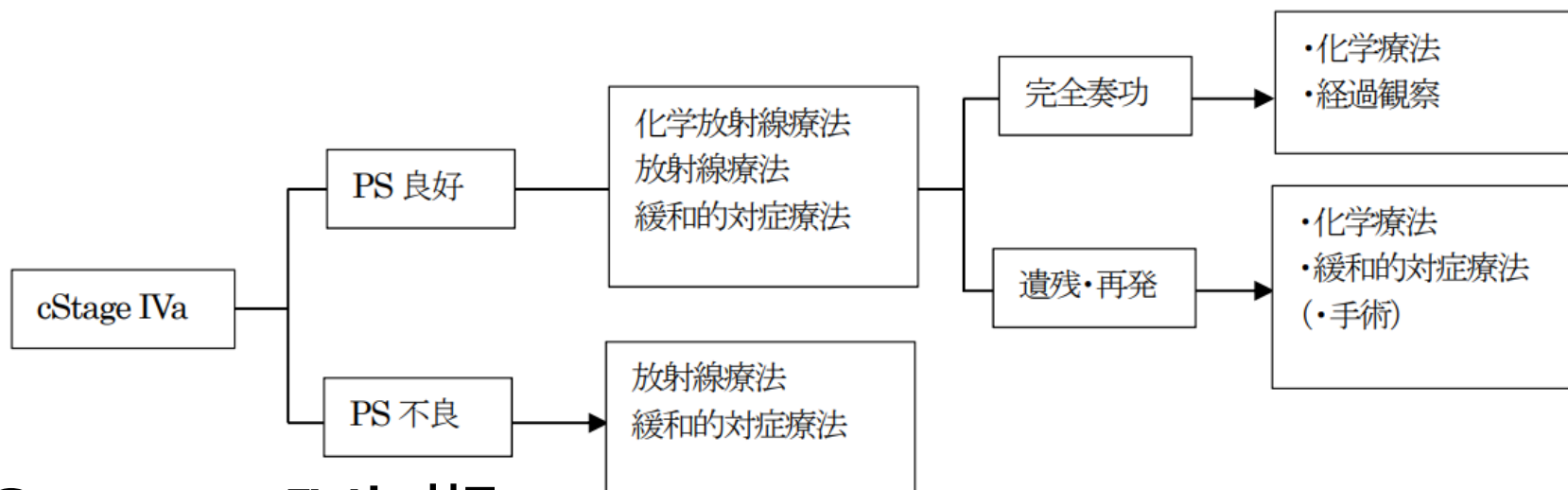
cStage: II / III期



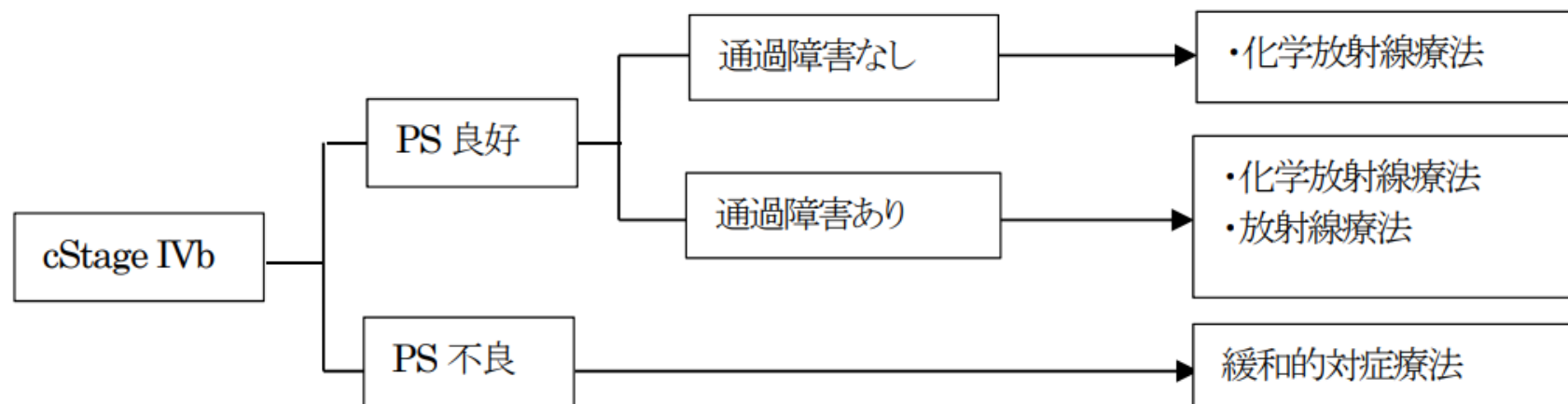
* 救済治療：内視鏡的切除、手術

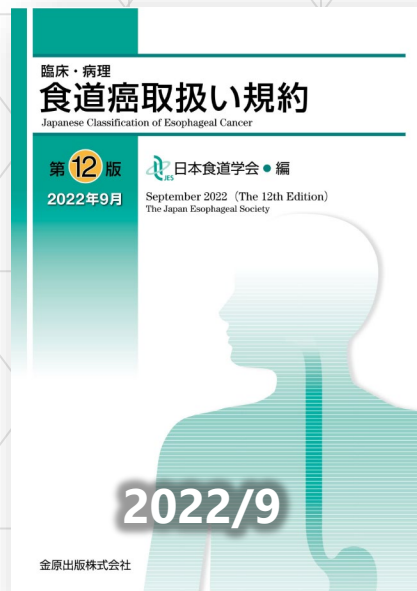
取扱い規約に基づく治療GL

cStage: IVa期



cStage: IVb期





食道がんの病期分類

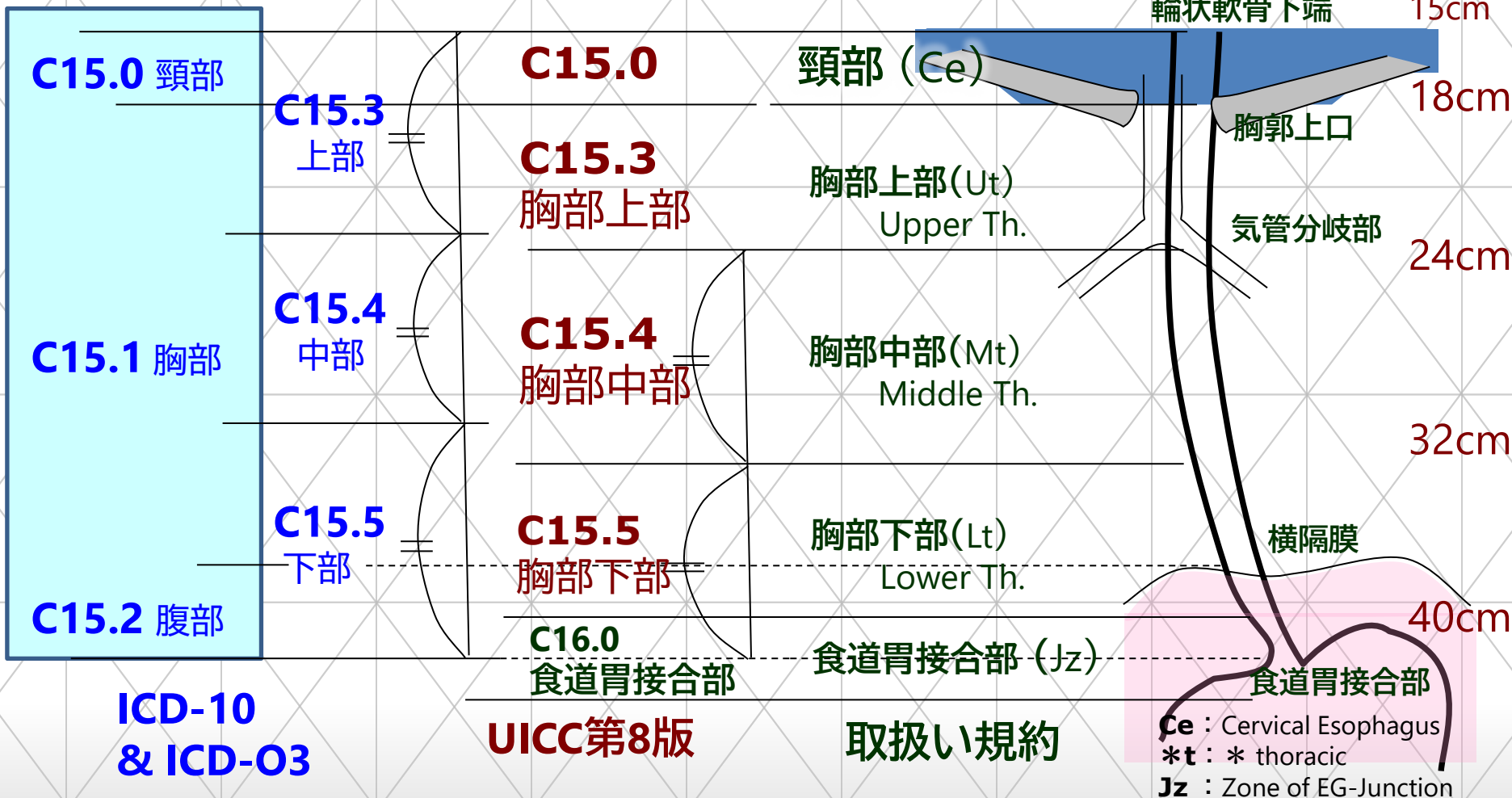
— 扁平上皮癌・腺癌 —

局在コード 《食道》

ICD-O 局在	取扱い規約	部位	備考
C15.0	Ce	頸部食道	門歯列より～18cm
C15.1	Te, NOS Ut, Mt, Lt	胸部食道	門歯列より18cm～40cm
C15.2	—	腹部食道 食道胃接合部の食道癌	門歯列より40cm～
C15.3		上部食道 食道近位3分の1	門歯列より～25cm
C15.4		中部食道	門歯列より25cm～35cm (～30cm)
C15.5		下部食道 食道遠位3分の1	門歯列より35cm～ (30～40cm)
C15.8		食道の 境界部病巣	取扱い規約では、「癌腫が2領域以上に及ぶ場合、主病変部位が癌の壁深達度が最深部の占拠部位をとる。最深部の判定が困難な場合は癌腫の中心を主占拠部位とする。癌腫の壁深達度の深い順に占拠部位を記載する。判定の困難な場合は広い順に記載する。例: MtLt, LtAeG」とされており、がん登録では先に書かれた部位で登録する。
C15.9	”食道”の記載のみ	食道、NOS	
C16.0	Jz	食道胃接合部 (噴門、NOS)	EGJ (EsophagoGastric Junction) 食道原発であることが明確でない場合

食道がんの局在コード

●ICD-O3と UICC、取扱い規約 少し異なる



形態コード(組織型) 《食道》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮内扁平上皮癌、NOS	Squamous cell carcinoma in situ, NOS	8070/2
高悪性度上皮内腫瘍	high grade intraepithelial neoplasia	8077/2
上皮内癌	(squamous cell) carcinoma in situ	8070/2
扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma	8070/3
扁平上皮癌(高分化型)	well differentiated type	8070/31
扁平上皮癌(中分化型)	moderately differentiated type	8070/32
扁平上皮癌(低分化型)	poorly differentiated type	8070/33
類基底細胞(扁平上皮)癌	Basaloid(-squamous) carcinoma	8083/3
腺扁平上皮癌	Adenosquamous carcinoma	8560/3
癌肉腫	Carcinosarcoma	8980/3

扁平上皮癌で分類 **8051/3～8152/3、8070/3～8078/3、8081/2、
8083/3～8084/3、8094/3、8560/3、8980/3～8981/3**

形態コード(組織型)

《食道》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
腺癌	Adenocarcinoma, NOS	8140/3
腺癌(高分化型)	well differentiated type	8140/31
腺癌(中分化型)	moderately differentiated type	8140/32
腺癌(低分化型)	poorly differentiated type	8140/33
粘表皮癌	Mucoepidermoid carcinoma	8430/3
腺様嚢胞癌	Adenoid cystic carcinoma	8200/3
内分泌細胞腫瘍、悪性	Endocrine cell tumor, malign.	8246/3
カルチノイド腫瘍 ※1	Carcinoid tumor	8240/3
内分泌細胞癌	Endocrine cell carcinoma	8246/3
未分化癌	Undifferentiated carcinoma	8020/3
消化管間葉腫瘍 ※2	Gastrointestinal stromal tumor (GIST)	8936/3
悪性黒色腫 ※3	Melanoma, malignant	8720/3

- ※1 消化管カルチノイドで分類
 ※2 GISTで分類
 ※3 UICC TNM分類の適用外

腺癌で分類 別表参照

扁平上皮癌の範囲(別表) 《食道》

8051/3 疣状癌	8074/3 扁平上皮癌、紡錘形細胞	8083/3 基底細胞様扁平上皮癌
8052/3 乳頭状扁平上皮癌	8075/3 扁平上皮癌、腺様	8084/3 扁平上皮癌、明細胞型
8070/2 上皮内扁平上皮癌	8076/2 間質浸潤には疑義がある 上皮内扁平上皮癌、	8094/3 基底扁平上皮癌
8070/3 扁平上皮癌	8076/3 扁平上皮癌、微小浸潤	8560/3 腺扁平上皮癌
8071/3 扁平上皮癌、角化	8077/2 扁平上皮内腫瘍、高異型度	8980/3 癌肉腫
8072/3 扁平上皮癌、大細胞性、非角化	8078/3 角化真珠を伴う扁平上皮癌	8981/3 癌肉腫、胎芽性
8073/3 扁平上皮癌、小細胞性、非角化	8081/2 ボウエン病	

腺癌の範囲(別表) 《食道》

8140/2	上皮内腺癌	8213/3	鋸歯状腺癌	8300/3	好塩基性腺癌
8140/3	腺癌	8214/3	壁細胞癌	8310/3	明細胞腺癌
8141/3	硬性腺癌	8215/3	肛門腺腺癌	8312/3	腎細胞癌
8143/3	表層拡大性腺癌	8220/3	大腸腺腫性ポリポース	8320/3	顆粒細胞癌
8145/3	びまん型癌腫	8221/3	多発性腺腫性ポリープ内腺癌	8322/3	水様細胞腺癌
8147/3	基底細胞腺癌	8244/3	腺神経内分泌癌	8323/3	混合細胞腺癌
8150/3	悪性膵内分泌腫瘍	8250/3	細気管支肺胞腺癌	8330/3	ろ胞腺癌
8154/3	膵内分泌・外分泌細胞混合腺癌	8251/3	肺胞腺癌	8331/3	高分化型ろ胞腺癌
8160/3	胆管癌	8255/3	垂型の混在を伴う腺癌	8332/3	中分化型ろ胞腺癌
8163/2	高異型度上皮内腫瘍を伴う 乳頭状腫瘍、膵胆管型	8260/3	乳頭状腺癌	8333/3	胎児性腺癌
8163/3	膵胆管型癌	8261/2	絨毛状腺腫内上皮内腺癌	8340/3	乳頭状癌、ろ胞状亜型
8190/3	索状腺癌	8261/3	絨毛状腺腫内腺癌	8350/3	非被包性硬化癌
8200/3	腺様のう胞癌	8262/3	絨毛状腺癌	8370/3	副腎皮質癌
8201/2	篩状上皮内癌	8263/2	腺管絨毛腺腫内上皮内癌	8380/3	類内膜腺癌
8201/3	篩状癌	8263/3	腺管絨毛腺腫内膜癌	8382/3	類内膜腺癌、分泌変異型
8210/2	腺腫性ポリープ上皮内腺癌	8270/3	嫌色素性癌	8383/3	類内膜腺癌、絨毛細胞変異型
8210/3	腺腫性ポリープ内腺癌	8280/3	好酸性癌	8384/3	腺癌、内頸部型
8211/3	管状腺癌	8290/3	好酸性腺癌	8400/3	汗腺腺癌

腺癌の範囲(別表) 《食道》

8401/3	アポクリン腺癌	8481/3	粘液産生腺癌	8520/3	小葉癌
8408/3	エクリン乳頭状腺癌	8482/3	粘液性腺癌、内頸部型	8525/3	多形低悪性度腺癌
8410/3	脂腺癌	8490/3	印環細胞癌	8550/3	腺房細胞癌
8413/3	エクリン腺癌	8500/2	導管内癌、非浸潤性	8570/3	扁平上皮化生を伴う腺癌
8420/3	耳垢腺癌	8500/3	浸潤性導管癌	8571/3	軟骨化生・骨化生を伴う腺癌
8441/3	漿液性のう胞腺癌	8503/2	非浸潤性導管内乳頭状腺癌	8572/3	紡錘細胞化生を伴う腺癌
8450/3	乳頭状のう胞腺癌	8503/3	浸潤を伴う導管内乳頭腺癌	8573/3	アポクリン化生を伴う腺癌
8460/3	乳頭状漿液性のう胞腺癌	8504/2	非浸潤性のう胞内癌	8574/3	神経内分泌分化を伴う腺癌
8470/2	非浸潤性粘液性のう胞腺癌	8504/3	のう胞内癌	8576/3	肝様腺癌
8470/3	粘液性のう胞腺癌	8510/3	髓様癌		
8480/3	粘液腺癌	8520/2	小葉性上皮内癌		

形態コード(病理組織) 《食道》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
良性上皮性腫瘍、前癌状態	<i>Benign epithelial tumours and precursors</i>	
食道扁平上皮乳頭腫	Oesophageal squamous papilloma	8052/0
扁平上皮乳頭腫症	Squamous cell papillomatosis	8060/0
バレット異形成	Barrett dysplasia	
食道腺異形成、低異型度	Oesophageal glandular dysplasia, low grade	8148/0
食道腺異形成、高異型度	Oesophageal glandular dysplasia, high grade	8148/2
食道扁平上皮異形成	Oesophageal squamous dysplasia	
上皮内扁平上皮腫瘍、低異型度	Squamous intraepithelial neoplasia, low grade	8077/0
上皮内扁平上皮腫瘍、高異型度	Squamous intraepithelial neoplasia, high grade	8077/2
悪性上皮性腫瘍	<i>Malignant epithelial tumours</i>	
腺癌(EGJ発生腫瘍も含む)	Adenoca. of the oesophagus & EGJ, NOS	8140/3
腺様嚢胞癌	Adenoid cystic carcinoma	8200/3
腺扁平上皮癌・粘表皮癌	Adenosquamous and mucoepidermoid ca.	
腺扁平上皮癌	Adenosquamous carcinoma	8560/3
粘表皮癌	Mucoepidermoid carcinoma	8430/3
扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma, NOS	8070/3
疣状扁平上皮癌	Verrucous squamous cell carcinoma	8051/3
扁平上皮癌、紡錘細胞	SCC, spindle cell	8074/3
類基底細胞癌	Basaloid squamous cell carcinoma	8083/3
未分化癌	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8020/3
リンパ上皮様癌	Lymphoepithelioma-like carcinoma	8082/3

形態コード(病理組織) 《食道》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
悪性上皮性腫瘍(つづき)	<i>Malignant epithelial tumours</i>	
神経内分泌腫瘍	Neuroendocrine neoplasms	
神経内分泌腫瘍、NOS	Neuroendocrine tumour NOS	8240/3
神経内分泌癌、NOS	Neuroendocrine carcinoma NOS	8246/3
神経内分泌	Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm (MiNEN)	8154/3
-非神経内分泌混合腫瘍		
混合型神経内分泌癌	Mixed neuroendocrine carcinoma	8244/3
神経内分泌腫瘍、G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/3
神経内分泌腫瘍、G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/3
神経内分泌腫瘍、G3	Neuroendocrine tumour, grade 3	8249/3
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine carcinoma	8041/3
腺癌混合型小細胞癌	Combined small cell-adenocarcinoma	8045/3
扁平上皮癌混合型小細胞癌	Combined small cell-squamous cell carcinoma	8045/3

《食道》のUICC第8版

- 食道胃接合部の範囲を変更
「腫瘍の中心が2cm以内で、食道に浸潤」

Siebert分類のType I / II
→ 西の分類に近い

食道胃接合部は《食道》で分類 ← 日本では今のところ採用せず

- T分類では、
 - T4aとの浸潤範囲を一部変更
- N分類は、第7版と変更なし
- M分類は、第7版と変更なし
- 病期の決定は、
 - 扁平上皮癌
 - 腺癌

組織型別に病期を細分

に分けて、分類する

食道胃接合部癌(取扱い規約第12版)

●西の定義

- 病理組織にかかわらず、食道胃接合部の上下2cm以内に癌腫の中心

●Siewertの分類

- 食道胃接合部の食道側1cm、胃側2cmに癌の中心がある**腺癌**を噴門部癌とする

組織型は胃癌分類に従う

取扱い規約第12版

腺癌は胃癌の病期分類

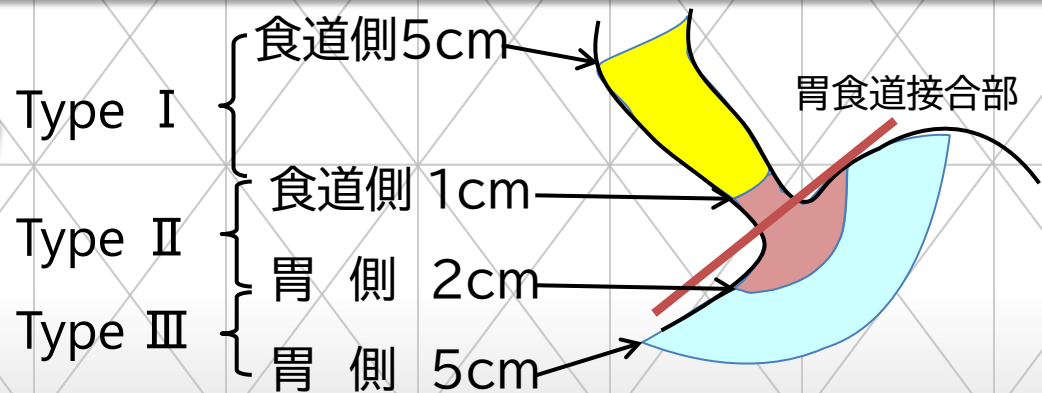
扁平上皮癌・その他は食道癌の病期分類

「EGJの前後2cmに腫瘍の中心があるもの」を食道胃接合部癌。(EGJ浸潤の有無は問わない)

UICC 第8版

EGJの前後2cmの範囲に腫瘍の中心があり、EGJに浸潤があるものは、**食道癌(腺癌)の分類を適用**

日本では、適用しない



T分類(UICC 第8版) 《食道》

Tis 上皮内癌

T1 粘膜固有層(**LPM**)、粘膜筋板(**MM**)

または 粘膜下層(**SM**)に浸潤する腫瘍

T1a 粘膜固有層(**LPM**)、粘膜筋板(**MM**)に浸潤する腫瘍

T1b 粘膜下層(**SM**)に浸潤する腫瘍

T2 固有筋層(**MP**)に浸潤する腫瘍

T3 外膜(**AD**)に浸潤する腫瘍

T4 周囲組織に浸潤する腫瘍

奇静脈、腹膜を追加

T4a 胸膜、心膜、奇静脈、横隔膜、腹膜に浸潤する腫瘍

T4b 大動脈、椎体、気管など他の周囲組織に浸潤

※ 他の周囲組織とは、大動脈、椎体、気管の他、気管支、肺、心臓、大静脈、反回神経、横隔神経、交感神経、瘻への浸潤、大静脈への圧排を指す

N分類(UICC 第8版) 《食道》

NX 領域リンパ節転移の評価が不可能

N0 領域リンパ節転移なし

N1 1～2個の領域リンパ節転移あり

N2 3～6個の領域リンパ節転移あり

N3 7個以上の領域リンパ節転移あり

- 食道の領域リンパ節
鎖骨上リンパ節を除く
食道のリンパ流領域のリンパ節
(頸部傍食道、腹腔動脈リンパ節を含む)

領域リンパ節の変換

《食道》

取扱い規約のリンパ節		頸部	胸部上部	胸部中部	胸部下部	腹部	全亜部位
		取扱い規約	取扱い規約	取扱い規約	取扱い規約	取扱い規約	UICC
100spf	浅頸	第3群					
100sm	顎下	第3群					
100tr	頸部気管前	第3群					
100ac	副神経	第3群					
101	頸部食道傍	第1群	第1群	第2群	第3群		領域
102up	上深頸	第2群					
102mid	中深頸	第2群	第3群				
103	咽頭周囲						
104	鎖骨上	第2群	第2群	第3群			
105	胸部上部食道傍	第2群	第1群	第2群	第3群		領域
106recL	左反回神経周囲	第1群	第1群	第1群	第2群	第3群	領域
106recR	右反回神経周囲	第1群	第1群	第1群	第2群	第3群	領域
106pre	気管前		第3群				領域
106tbL	左側気管気管支		第2群	第2群	第3群		領域
106tbR	右側気管気管支		第3群				領域
107	気管分岐部		第2群	第2群	第2群	第3群	領域
108	胸部中部食道傍		第2群	第1群	第2群	第3群	領域
109L	左主気管支下		第2群	第2群	第2群	第3群	領域
109R	右主気管支下		第2群	第2群	第2群	第3群	領域
110	胸部下部食道傍		第3群	第2群	第1群	第1群	領域
111	横膈上		第3群		第3群	第2群	領域
112aoA	腹側胸部大動脈周囲		第3群	第2群	第2群	第2群	領域
112aoP	背側胸部大動脈周囲						
112pul	肺間膜		第3群	第2群	第2群	第2群	領域
113	動脈管索						
114	前縦隔						
1	右噴門		第3群	第1群	第1群	第1群	領域
2	左噴門		第3群	第1群	第1群	第1群	領域
3a	小彎(左胃動脈に沿う)		第3群	第1群	第1群	第1群	領域
3b	小彎(右胃動脈に沿う)						
4sa	大彎(左群:短胃動脈)						
4sb	大彎(左群:左胃大網動脈)						
4d	大彎(右群:右胃大網動脈)						
5	幽門上						
6	幽門下						
7	左胃動脈幹		第3群	第2群	第1群	第1群	領域
8a	総肝動脈幹前上部				第3群	第2群	領域
8p	総肝動脈幹後部						
9	腹腔動脈周囲			第2群	第2群	第2群	領域
11p	脾動脈幹近位				第3群	第2群	領域
11d	脾動脈幹遠位					第3群	
19	横膈下				第3群	第2群	領域
20	食道裂孔部		第3群	第2群	第1群	第1群	領域

取扱い規約では
#100～#114、
#1～#20が
領域リンパ節
(原発部位によって異なる)

UICC 第8版での
領域リンパ節は
亜部位とは無関係
#101、
#105～#112、
(#112aoP除く)
#1～#3a、
#7～#8a、#9、
#11p、#19、#20

M分類(UICC 第8版) 《食道》

MX 遠隔臓器転移の有無が不明

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

cステージ(UICC第8版) 《食道・扁平上皮癌》

■扁平上皮癌 【臨床病期】

臨床分類		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1	T1a	I	I	III	IVA
	T1b				
T2		II	II	III	IVA
T3		II	III	III	IVA
T4	T4a	IVA	IVA	IVA	IVA
	T4b	IVA	IVA	IVA	IVA
M1		IVB	IVB	IVB	IVB

pステージ(UICC第8版)《食道・扁平上皮癌》

■扁平上皮癌 【病理学的病期】

病理学的分類		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1	T1a	I A	II B	III A	IV A
	T1b	I B			
T2		II A	III A	III B	IV A
T3		II B	III B	III B	IV A
T4	T4a	III B	III B	IV A	IV A
	T4b	IV A	IV A	IV A	IV A
M1		IV B	IV B	IV B	IV B

cステージ(UICC 第8版) 《食道・**腺癌**》

■**腺癌** 【臨床病期】

臨床分類		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1	T1a	I	II A	IV A	IV A
	T1b				
T2		II B	III	IV A	IV A
T3		III	III	IV A	IV A
T4	T4a	III	III	IV A	IV A
	T4b	IV A	IV A	IV A	IV A
M1		IV B	IV B	IV B	IV B

pステージ(UICC 第8版) 《食道・**腺癌**》

■**腺癌** 【病理学的病期】

病理学的分類		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1	T1a	I A	II B	III A	IV A
	T1b	I B			
T2		II A	III A	III B	IV A
T3		II B	III B	III B	IV A
T4	T4a	III B	III B	IV A	IV A
	T4b	IV A	IV A	IV A	IV A
M1		IV B	IV B	IV B	IV B

進展度(UICC第8版) 《食道》

		N0	N1	N2	N3
Tis		上皮内			
T1	T1a	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
	T1b	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3		隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
T4	T4a	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	T4b	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
M1		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

食道癌の肉眼的分類（取扱い規約）

- 表在型(0型)

- 表在隆起型(0-I 有茎性:0-I p、無茎性:0-I s)

- 表面型(表面隆起型:0-II a、表面平坦型:0-II b、表面陥凹型:0-II c)

- 表在陥凹型(0-III)

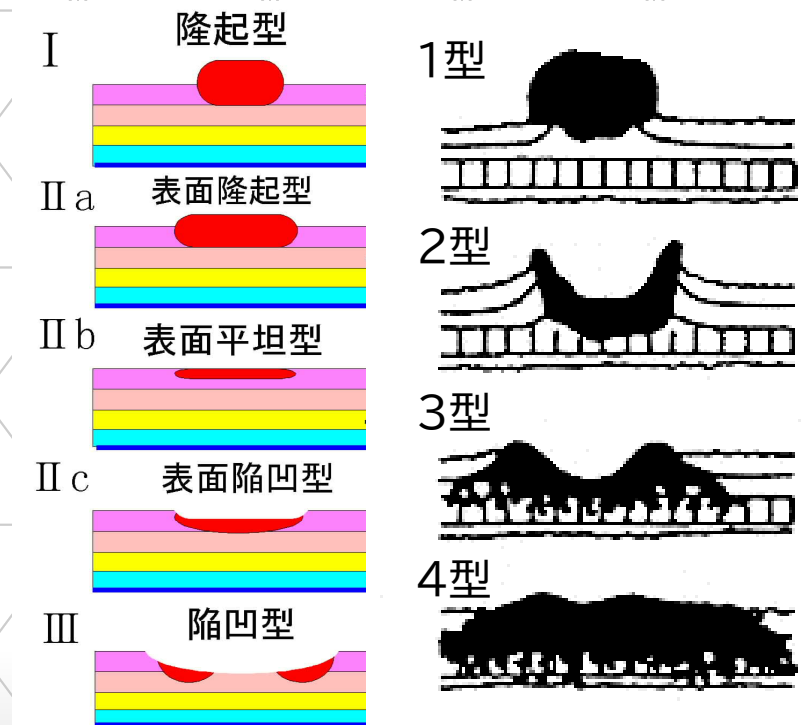
- 隆起型(1型)

- 潰瘍限局型(2型)

- 潰瘍浸潤型(3型)

- びまん浸潤型(4型)

- 分類不能型(5型)



cT分類(取扱い規約第12版)壁深達度《食道》

cTX 癌腫の壁深達度が判定不可能

cT0 原発巣としての癌腫を認めない

cT1 表在癌(原発巣が粘膜内もしくは粘膜下層にとどまる病変)

cT1a 癌腫が粘膜内にとどまる腫瘍【早期癌】

上皮内(**EP; Tis**)、粘膜固有層(**LPM**)、粘膜筋板(**MM**)

T1a-EP、**T1a-LPM**、**T1a-MM**と細分類する。

cT1b 粘膜下層(**SM**)にとどまる腫瘍【表在癌】

粘膜下層を3等分して、**SM1**、**SM2**、**SM3**と細分類する。

cT2 固有筋層(**MP**)にとどまる腫瘍

cT3 食道外膜(**AD**)に浸潤している腫瘍

cT3r 切除可能(画像上、他臓器浸潤が否定的)

cT3br 切除可能境界(画像上、他臓器浸潤が否定的できない)

合併切除可能な**T4a**に該当する隣接臓器は、**cT3r** または **cT4**
(心膜、横隔膜、肺、胸管、奇静脈、神経、胸膜、腹膜、甲状腺)

cT4 食道周囲臓器(**AI**)に浸潤している病変

pT分類(取扱い規約第12版)壁深達度《食道》

pTX 癌腫の壁深達度が判定不可能

pT0 原発巣としての癌腫を認めない

pT1 表在癌(原発巣が粘膜内もしくは粘膜下層にとどまる病変)

pT1a 癌腫が粘膜内にとどまる腫瘍【早期癌】

上皮内(**EP**; **Tis**)、粘膜固有層(**LPM**)、粘膜筋板(**MM**)

T1a-EP、**T1a-LPM**、**T1a-MM**と細分類する。

pT1b 粘膜下層(**SM**)にとどまる腫瘍【表在癌】

粘膜下層を3等分して、**SM1**、**SM2**、**SM3**と細分類する。

pT2 固有筋層(**MP**)にとどまる腫瘍

pT3 食道外膜(**AD**)に浸潤している腫瘍

pT4 食道周囲臓器(**A1**)に浸潤している病変

pT4a 心膜、横隔膜、肺、胸管、奇静脈、神経、胸膜、腹膜、甲状腺に浸潤

pT4b 大動脈(大血管)、気管・気管支、肺動/静脈、椎体に浸潤

※ リンパ節転移巣が、被膜を破って食道以外の臓器に浸潤した場合は、**T4**と扱う。

N分類(取扱い規約第12版)《食道》

NX 領域リンパ節転移の評価が不可能

N0 領域リンパ節転移なし

N1 1～2個の領域リンパ節転移あり

N2 3～6個の領域リンパ節転移あり

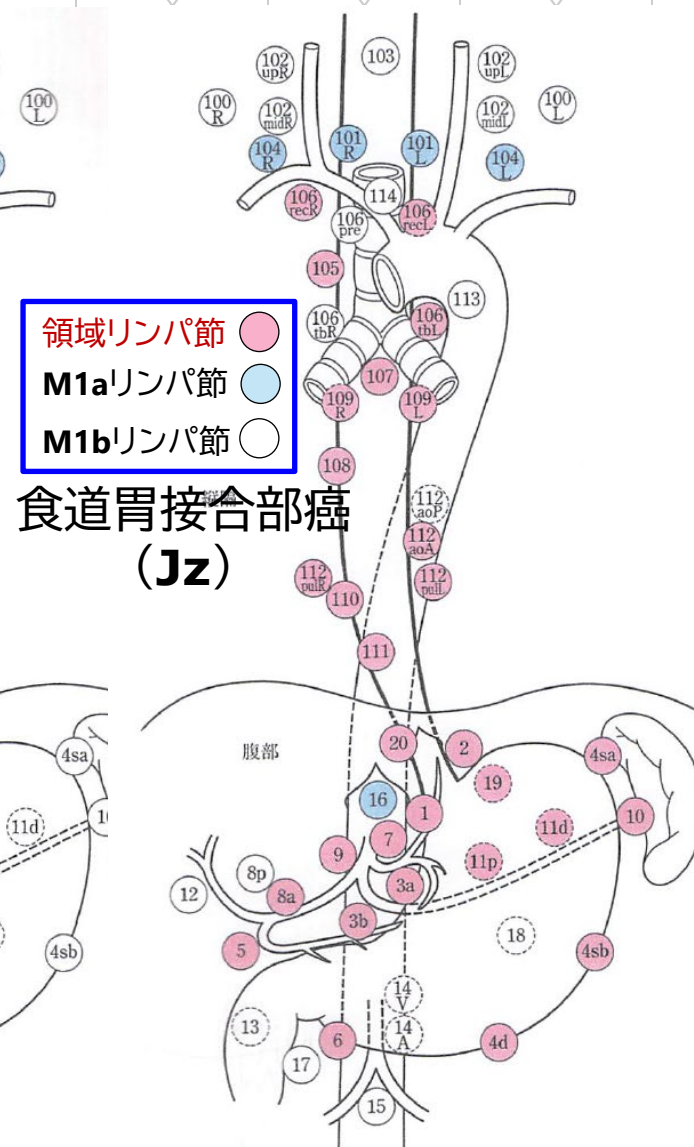
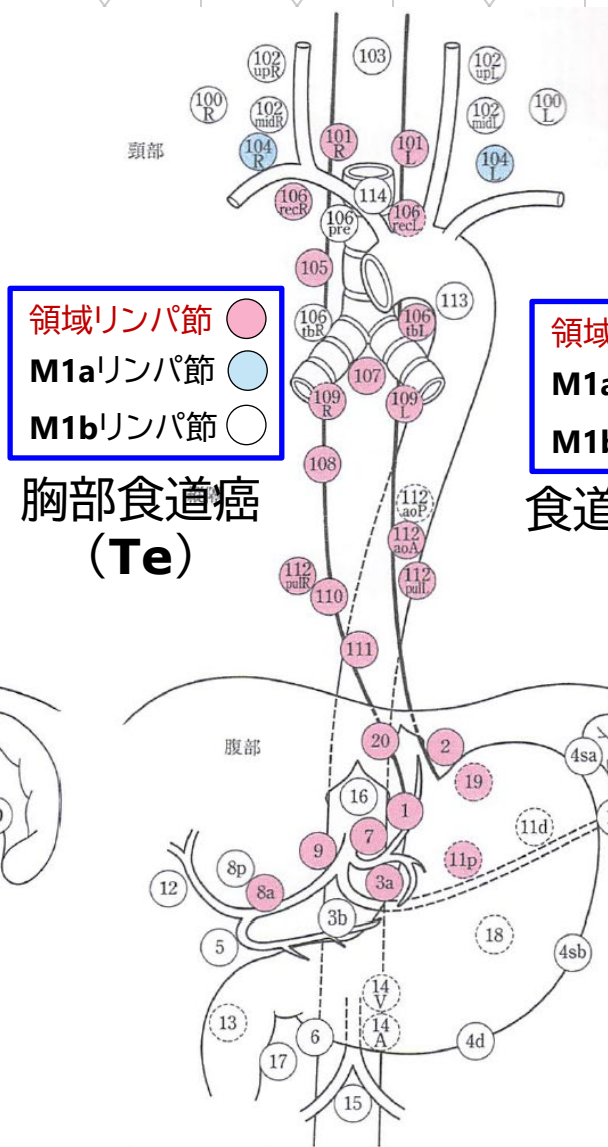
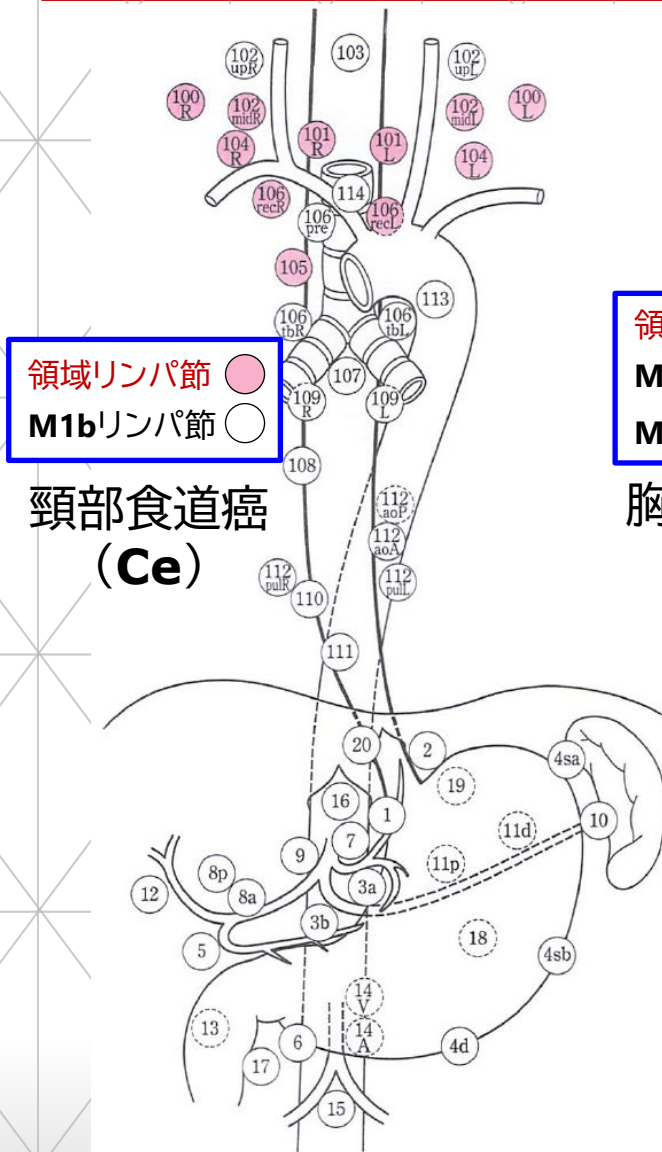
N3 7個以上の領域リンパ節転移あり

領域リンパ節(取扱い規約第12版)《食道》

	領域リンパ節	M1a	M1b
頸部 Ce	頸部:100, 101, 102mid, 104 縦隔:105*, 106rec*	なし	その他
胸部 Te	頸部:101 縦隔:105, 106rec, 106tbL, 107, 108, 109, 110, 111, 112aoA, 112pul 腹部:1, 2, 3a, 7, 8a, 9, 11p, 19, 20	104	102 106pre,106tbR, 112aoP 16, その他
食道 胃接合部 Jz	頸部:なし 縦隔:105, 106rec, 106tbL, 107, 108, 109, 110, 111, 112aoA, 112pul 腹部:1, 2, 3a, 3b, 4sa, 4sb, 5, 6, 7, 8a, 9, 10, 11p, 11d, 19, 20	101, 104 16	その他

※ 多発癌、2領域以上に広がる癌の領域リンパ節は、
深達度の最も深い癌の占拠部位の領域リンパ節群に従う。

領域リンパ節(取扱い規約第12版)《食道》



M分類(取扱い規約第12版)《食道》

MX 遠隔臓器転移の有無が不明

M0 遠隔臓器転移なしを認めない

M1a 郭清効果の期待できる
領域外リンパ節に転移を認める

M1b **M1a**以外の領域外リンパ節、
もしくは 遠隔臓器転移を認める。

※ 胃壁内転移は遠隔臓器転移として扱う。

cステージ(取扱い規約第12版)《食道》

		N0	N1	N2	N3	M1a	M1b
T0		0	Ⅱ	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅣB
T1	T1a	0	Ⅱ	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅣB
	T1b	I	Ⅱ	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅣB
T2		Ⅱ	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅣB
T3	T3r	Ⅱ	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅣB
	T3br	ⅢB	ⅢB	ⅢB	ⅢB	ⅢB	ⅣB
T4		ⅣA	ⅣA	ⅣA	ⅣA	ⅣA	ⅣB

pステージ(取扱い規約第12版)《食道》

		N0	N1	N2	N3	M1a	M1b
T0		0	ⅡA	ⅡA	ⅢA	ⅢA	ⅣB
T1	T1a	0	ⅡA	ⅡB	ⅢA	ⅢA	ⅣB
	T1b	I	ⅡA	ⅢA	ⅢA	ⅢA	ⅣB
T2		ⅡA	ⅡB	ⅢA	ⅢB	ⅢB	ⅣB
T3		ⅡB	ⅢA	ⅢB	ⅣA	ⅣA	ⅣB
T4	T4a	ⅢB	ⅢB	ⅣA	ⅣA	ⅣA	ⅣB
	T4b	ⅣA	ⅣA	ⅣA	ⅣA	ⅣA	ⅣB